

コミュニケーション・オン・エンゲージメント（COE）

2022 年 10 月 14 日

国際基督教大学（ICU）はキリスト教の精神にもとづき、「国際的社会人としての教養をもって、神と人々とに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること」を目的として、1953 年に献学されました。

人種、宗教、国籍を問わず、すべての学生を平等に受け入れている ICU では、開学以来、新入生が一人ひとり入学式で「世界人権宣言」を尊重することを誓う「学生宣誓」に署名します。

このように、ICU がグローバル・コンパクトの掲げる原則を支持することは、大学の理念と一致しており、特に「人権擁護の支持と尊重」と「環境に対する責任のイニシアティブ」の二点に関しては、具体的に学内で実践すべく日々努力しております。

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」（事業期間：2014 年度～2023 年度）に採択された本学の取組『信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開』は、2018 年 2 月 28 日に公表された中間評価において、最高評価の「S」を獲得しました。今後も、「信頼される地球市民」として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する人材の輩出を目指し、今後もグローバル・コンパクトを支持していく所存です。

学 長 岩 切 正 一 郎

国連グローバル・コンパクトを促進する活動の実施状況
(2019 年 12 月～2022 年 9 月)

1. 人権

(1) 人権セミナー

本学では、学生、教職員をはじめとする全ての ICU 構成員の誰もが、安心して学び、研究し、働き、生活できるようにするために、構成員一人ひとりが「人権」を自分のこととして捉え、そして考えることを旨とした人権セミナーを毎年 12 月の人権週間に合わせて実施し、学生や教職員の間に浸透し、成果を上げています。

このセミナーは、各界で活躍している方に、自身の仕事や専門領域に関して人権の視点で語っていただくことにより、日常生活の中に存在する人権問題を学生と教職員が認識する機会とすることを目的として開催し、大学のコンヴェンションアワーという時間帯に実施しています。このコンヴェンションアワーは、学生と教職員と一緒に集まることができるように、授業や予め許可されていない活動は行わないことになっており、学内の構成員全員が参加できるような時間帯に毎年開催されるこの「人権セミナー」は、本学の人権に対する歴史的、伝統的な取り組みとして長年実施され、日常生活の中での人権に対する意識をどのように醸成していくかに焦点をあてています。

学生の参加を促すために、学生によるポスターを日本語・英語で学内に掲示し、当日の同時通訳は通訳の訓練を受けている学生たちが行っていますが、これらは、本学の特徴である「日英バイリンガリズム」と「（大学構成員の）多様性」に鑑みでの配慮であり、人権セミナーが大学構成員全員に向けたメッセージであることを示し、上記の作業に関わる学生たち（教員も含む）が本セミナーやそこで扱われるテーマを一層の自分のこととして捉える機会になっています。

[第 24 回人権セミナー「日常生活に埋め込まれた無意識な差別～マイクロアグレッション～」](#)
(2021 年 12 月)

[第 23 回人権セミナー「コロナ禍と居場所 ～こども食堂の取り組みから～」](#) (2020 年 12 月)

第 22 回人権セミナー「現代の人権問題と国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチの役割」
(2019 年 12 月)

(2) 日英仏 3 言語版『ビジュアル版世界人権宣言』の出版

出版社と協働し書籍「日英仏 3 言語 ビジュアル版 世界人権宣言」の出版を実現しました。本学は英訳を担当し、40 名超の学生で構成されたプロジェクトチームが約半年間をかけて原稿を完成させました。この書籍は今後の新入生に毎年配布し、世界人権宣言の理解を通じた学生宣誓の実質化が期待されます。

プロジェクト期間中には、本学教員による人権に関わる特別講義（計 4 回）を開催し、在学生在が学生宣誓を意識しながら大学生活を過ごすきっかけを提供しました。

(3) ウクライナ学生受け入れ

本学はいち早くロシア侵攻に反対する声明を発表するとともに、ウクライナ学生を受け入れると決定しました。日本国際基督教大学財団（JICUF）と共同して、ロシアの軍事侵攻を逃れるために日本へ入国し、教育の継続を希望するウクライナの大学生 5 名を受け入れ、支援しています。本学と JICUF は、2017 年よりシリア内戦を逃れたシリア学生を支援してきましたが、同じ人道的精神に基づいた活動を継続していきます。

(4) 人権に関するイベント開催等

JICUF とジャパン・ソサエティによるイベント開催「日本の高等教育機関によるウクライナの学生への支援」（2022 年 9 月）

講演会「ミャンマーの現在 -我々にはどのような対応が可能か- 」を開催 （2021 年 5 月）

2. 「環境・SDGs」

本学では、そのすべての活動においてキャンパス環境に対する敬意と配慮、キャンパス生態系維持への努力など、十全な管理に取り組んでいます。さらに、すべての構成員には、自らの営みが地域的および地球的環境に影響を及ぼすものであることを深く自覚し、その保全に責を負うことを求め、比類なく美しい自然と、貴重な文化遺産を擁するこの環境を天恵の財として、次の世代に受け継げるよう努めています。教職員・学生協働によりこの取り組みをさらに深化させるため、2020 年度に SDGs 推進室を設置しました。

(1) SDGs に関連したイベント開催等

ICU SDGs 推進室（室長：布柴達男教授・環境研究メジャー）のキックオフイベント、「つくる責任、つかう責任：Virtual Worn Wear Workshop」（2021 年 5 月）

[学生団体による SDGs 討論会が開催](#) (2021 年 5 月)

[世界人権デーに、ICU の SDGs の取組みを紹介するウェブサイトオープン](#) (2021 年 12 月)

[学生が「第 7 回 SDGs 学生小論文アワード」の優秀賞および審査委員特別賞を受賞](#) (2022 年 1 月)

[国際シンポジウム「アジアにおけるサービス・ラーニングの未来—ネットワーキングのための地域対話」を開催](#) (2022 年 7 月)

[三鷹市農業委員会主催「第 1 回 農の四季コンテスト 散歩道からの農風景」にて優秀賞を受賞](#) (2021 年 12 月)

[サステナブルな社会の実現に向けた次世代の金融プロフェッショナルの育成を目指した特別プログラム「Data Science in Finance」を実施](#) (2021 年 11 月)

[第 3 回グローバル経営者レクチャーシリーズ開催](#) (2021 年 11 月)

["Future of Education Webinar Series: Innovating Higher Education in Japan"オンライン開催](#) (2021 年 10 月)

[国際教養大学 \(AIU\) と、学生のサービス・ラーニング \(SL\) 活動の実施に関する覚書を締結](#) (2021 年 8 月)

[生涯学習プログラム「ICU Language Workshop: 英語×〇〇」を実施](#) (2021 年 7-8 月)

[NSフォーラム「内閣官房新型コロナ AI シミュレーションプロジェクトの経緯」開催](#) (2021 年 6 月)

[国連研修開催](#) (2021 年 4 月)

[長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）および公益財団法人長崎平和推進協会と、学生のサービス・ラーニング活動の実施に関する協定書・覚書を締結](#) （2021 年 3 月）

[ICU Global Challenge Forum 2020 を実施](#) （2020 年 12 月-2021 年 3 月）

（2）太陽光発電・学内施設

2015 年より開始した本学那須キャンパスにおける太陽光発電事業は、CO2 削減による環境負荷低減への取り組み、所有資産の有効活用、太陽光発電により生じる収益を学生支援のために活用することを目的として運営しています。2021 年度は 2,677,887kWh を発電し、自然エネルギー利用の一端を担うと同時に、収益を学生へと還元し、教育活動の充実へ寄与しています。

2022 年 11 月竣工予定のトロイヤー記念アーツ・サイエンス館は地下ピットの空気を館内空調に利用するなど、環境負荷を軽減する設備を採用しています。

（3）学生による活動等

[オンラインにて開催された 2022 模擬国連人権理事会 UPR（普遍的・定期的レビュー）大会に学生チームが出場、最優秀チームワーク賞を受賞](#) （2022 年 8 月）

[ジャパン・カップ国際法模擬裁判大会 2022 国内大会で学生チーム受賞](#) （2022 年 7 月）

[ジェサップ国際法模擬裁判大会 2022 国内大会で学生チーム受賞](#) （2022 年 3 月）

[日中友好会館主催「第 2 回 日中大学生オンライン交流」に学生参加](#) （2021 年 10 月）

[本学学生がジェサップ国際法模擬裁判大会国内大会で総合 3 位、弁論 3 位及び 4 位を受賞](#)
（2021 年 2 月）

以上